

災救通信

平成29年
9月1日
第12号

発行

天理教
災害救援
ひのきしん隊
北海道教区隊

逐次発行

宣誓

我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。

平時訓練

本年度は教務支庁を訓練地として、8月28日から二泊三日の日程で平時訓練を実施した。作業内容は前号『災救通信』で報じたように、教務支庁北側のブロック塀が徐々に北側へ傾き、倒壊の恐れが出てきたため、改修作業を行った。また、並行して樹木の剪定及び枝葉の廃棄運搬作業、庁舎犬走り化粧砂利の補充作業、各所倉庫物置のペンキ塗り作業、ブロック塀等モルタル補修作業などを行った。また、30日には福祉部からの依頼を受け、献血ひのきしんも行った。ブロック塀改修作業にあたっては事前準備として、6月21日重機バックホーを用いての根掘り作業。7月28日、29日とベース（基礎部分）の型枠作成および鉄筋組み作業を行った。また、8月16日に鉄筋組みの強化と型枠の修正作業を行って、8月18日に待望のコンクリート打設を行って、平時訓練初日を迎えた。

8月28日午前、災救隊教区スタッフが結隊式に向け早朝より準備を進める。庶務受付、下足、休憩用の各テントを設営し、各作業場所の準備を行った。正午頃になると全道より隊員が続々と集合



災救隊本部より田中豊一主事が来道。

し始め、一気に慌ただしさと共に緊張感が増し始めた。

午後一時、おちばより田中豊一災救隊本部主事（本荘大教会長）が教区入りされ、神殿にて結隊式を行った。田中主事は、『災救隊は一列兄弟、互い立て合いたすけあいの教えのもとに創設以来、救援活動が続けられ、一般の方にも認識され

各方面から多くの期待が寄せられている。この期待に応えるには訓練を通して、技術の習得や隊員相互が一手ひとつに心を寄せた体制作りが大切である。また、災害を見せただけではないよう、地域で日々ひのきしん活動を推進していただきたい』とあいさつがあった。



オリエンテーションでのスタッフ紹介。

結隊式後、オリエンテーションが行われ、各班の班長、教区スタッフが紹介され、早速、班毎に分かれて作業の説明が行われた。

1班はブロック塀に替わる土留め壁のベースに、コンパネで型枠を作り一枚一枚立て固定する作業を行った。また、同時にベースから出ている縦鉄筋に横鉄筋を入れたり、壁の強度が増すように数メートルおきにバットレス（控え壁）用の鉄筋組みも行った。

2班では敷地の西側と南側のブロック塀の欠けている所をモルタルを埋め込み補修を行った。また、2班の半個班は南側境界際にある樹木の剪定を行った。

3班は犬走りと言われる庁舎軒下に化粧砂利を敷き直すために、バケツや一輪車を使って不要な大きめの玉砂利や、コンクリート殻、割れて無造作に置かれたレンガなどを回収した。更に半個班は青年会のプレハブ倉庫などの屋根や窓柵のペンキ塗りを行った。

初日は各班とも2時間半程の作業を行った後、市内2箇所のスーパー銭湯「極楽湯」「北のたまゆら」に分かれ汗を流した。帰隊後は食事係が一丸となって作った夕食を、おとまり会の少年会員のよう楽しくいただいた。きつとカレーがそうした雰囲気を作り出してくれたと思う。19時、夕礼。各班、規律訓練で学んだ点呼を行い夕づとめをつとめた。その後、班長会議を行って連絡と注意事項を確認した。

20時、食堂では災救バンドがバンド演奏を2曲披露したりと和やかな一日の終わりを親しい仲間と、又は同じ班員同士や支部毎にと、思い思いに過ごし就寝した。



初日の鉄筋組み。クルクルと回して。

2日目

29日、明け方に結構な雨が降り、その後パラパラと降り続いた。6時30分、教務支庁朝づとめをつとめ、朝礼を行う。朝食を摂ってから作業準備を進める。

8時30分、雨も上がり2日目の作業が開始された。昨日に続いて1班は、型枠の作製を行う。型枠全体の大きさは長さ約22m高さ90cm幅15cmでコンクリート打設に耐えられるよう、セパレーターという金具を複

数使って枠の隙間を保ちながら固定し、その金具に外側からフォームタイという金具を付けて、単管を固定した。

一方、2班は昨日ブロック塀の部分補修と共に半個班は敷地内にある伸びすぎた樹木の剪定、伐採作業を安全に行うため、17mタイプの高所作業車を導入し作業を行った。ゴンドラにチェンソーを積み、免許保持者の高坂教区副隊長補が操作し、次々と剪定を行う。合図と共に下で待機している隊員が枝を拾い集めトラックに積み込んだ。枝葉がトラック一杯になると処分場所まで運搬し、廃棄を行った。

3班、犬走りチームは化粧砂利を一輪車に入れ次々と運搬して、レイキやホー等を使って敷き広げ仕上げを行った。また、半個班は雨が心配され



高所作業車を使って安全に。



化粧砂利を積み、犬走りへ運搬。

だが、昨日やり残したプレハブ2階部分に、足場をかけ直しペンキ塗り作業を続けた。昼食休憩を挟み午後からも順調に作業を行って予定の作業を終えた。その後一同は、昨日同様にスパー銭湯で汗を流すことになるが、庶務の計らいで昨日と反対の銭湯に浸かることとなり、つかの間の温泉気分を味わった。

三日目最終日。6時30分から朝づとめ、朝礼をつとめた後、会議室の私物を片付け福祉部に会場を明け渡した。朝食をいただき8時30分、おちばを遙拝し作業の説明を班毎に受け最終日の作業が開始された。最終日のメイン作業は何と言っても型枠へのコンクリート打設である。コンクリートを圧送するポンプ車が到着し、アームを伸ばしてミキサ車の到着を待つ。

二日目は18時30分から夕礼を行い、続けて班長会議を行った後、お楽しみ懇親を兼ねた夕食会を食堂にて行った。食事班が準備を重ねて調理したメインメニューは、酢飯に具材をちりばめたバラ寿司。他にもメインに匹敵する野菜のかき揚げや天ぷら。そばやうどん。また、串に刺して一本一本心を込めて炭火で焼いた鶏串等々が大量に振る舞われ、隊員達の胃袋と心を満たしてくれた。活動について話し合ったり、作業について話し合ったりと最後はどのようにお開きになったのだろうか。



ペンキ用の足場をかける。



生コンの圧送。気が抜けません。

9時、ミキサ車が到着。早速圧送が始まった。型枠内に勢いよくコンクリートが流されると、そこへ2台のバイブレータで振動をさせて空気だまりを防ぎ作業を進めた。また、バットレス部分は木槌や金槌でたいたいて隙間を無くすようサポートを行う。この様子が打設と言われる所である。凡そ1時間で圧送が終わりかかったが、コンクリートが少し足りなくなるといいうハプニングが発生した。急ぎよセメント、砂、砂利を握ね対応し型枠を満たした。最後は型枠の天板を木ゴテで均し無事作業を終えることが出来た。



部分補修チーム。

打設作業の他は、使用したテントを撤収し、収納する倉庫を整理しながら撤収作業を行ったり、裏玄関前の側溝を補修などを行った。また、各所に散乱した古材や殻を片付け、駐車場の隅々を整地して、9月3日の教区記念祭の準備を担うことが出来た。

なお、最終日は作業の合間に献血ひのきしんにも参加し、今回の作業を全て終えることが出来た。

解隊式では高橋政嗣教区総務部長からお礼と労いのあいさつをいただいて、今年の平時訓練を終えた。

参加人数
74名

函 館	1	苫小牧	1	上 川	3
渡 島	2	室 蘭	3	十 勝	3
八 雲	3	日 高	1	釧 根	1
俱知安	3	南空知	2	網 走	4
余 市	3	空 知	3	宗 谷	4
札中南	3	天 龍	2	教 区	12
札幌東	5	旭 川	6	教務支庁	8
本 部	1	合 計	74名		

平時訓練参加者

平時訓練への差し入れ

旭川支部様、

東旭川分教会様、
栗山分教会様、

俱知安支部様、
上川支部様、
北鷹分教会様、
園生分教会様、

余市支部様、
函館支部様
善進道分教会様、
道相分教会様、

教務支庁様

余澤分教会様

米、野菜、ビール、日本酒、調味料、つけもの、ジュースなど多数頂戴しました。
(ご披露漏れがありましたらお詫び申し上げます)